

平成30年度 課題研修

1 研究主題

基礎・基本の確実な定着を目指す指導法の研究（算数科）

～表現力を育て、学びを深める指導の工夫～

平成28年度から30年度の3年間にわたり、春日部市教育委員会研究委嘱を受け、「基礎・基本の確実な定着を目指す指導法の研究～表現力を育て、学びを深める指導の工夫～」を主題に研究に取り組んでいる。28年度は、算数科の学習の中で、特に問題を読み解き立式する段階、自分の考えを表現する段階、練り上げの段階、まとめの段階で活かす授業の「型」を確立することを目指して取り組んできた。成果としては、本校として算数科の授業の1時間の学習過程を確立、既習を活かした課題解決型の授業展開をすること、自分の考えを十分にもたせること、考えを交流し「速く、正確、簡単」な考えを練り上げること、学習課題に正対した振り返りなどが挙げられる。

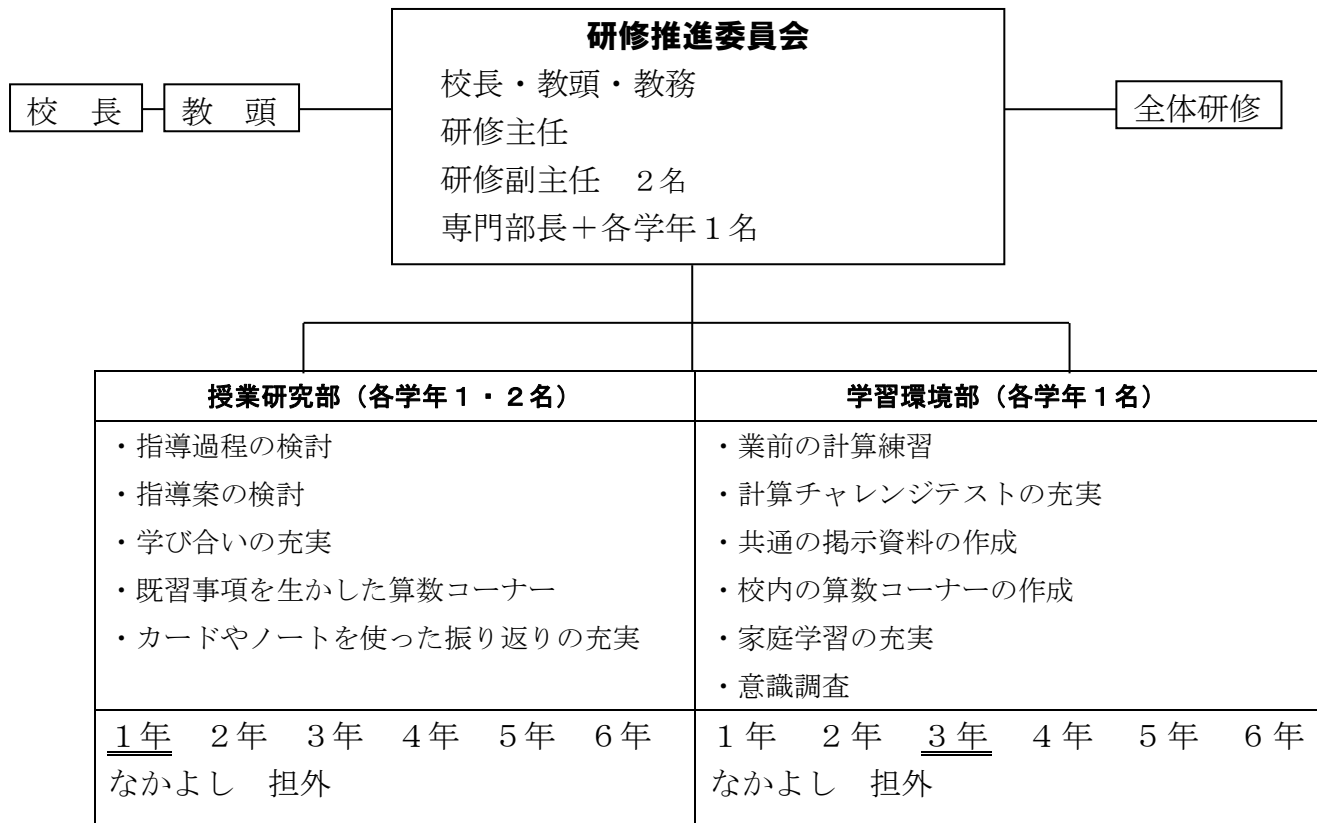
29年度は、算数科における「言語活動」の在り方を明確にすることで、算数科における「生きて働く国語力」についての研究を深め、学びを深める児童の育成を目指すこととした。研究の2年次にあたり、研究の重点を、「学年間の系統性」を意識し、基礎・基本の確実な定着を目指す算数指導の確立を目指すこと、また、これまでの国語研究の成果を活かし、言語活動の重要性を踏まえ、算数科においても「言語活動」を明確にした上で授業構想するとともに、相手・目的意識を明確にした交流の場で、自分の考えを表現できる子どもの育成を目指して取り組んできた。成果としては、系統性を重視した授業の意識が高まったこと、「算数科における言語活動」を通して指導をする意識が高まったこと、本校が重要と考える数学的な表現を明確にしたことなどが挙げられる。課題としては、本校が重要と考える数学的表現力の更なる育成、授業者が考える学習者の学びの深まりの手立てとその見届けなどが挙げられる。

今年度は新学習指導要領への移行期にあることも見据え、これからの時代に必要な資質・能力の育成を目指し、授業研究を基盤に各部会が連携し、これまでの国語研究の成果を算数科の中で表現力を育むことに活かしたり、不断の授業改善をとおして学びを深める授業を展開したりし、これまで以上に「基礎・基本の確実な定着」を実現するべく、研究を深めていきたい。

2 研究の仮説

- 1 学年間の系統性を意識し、既習事項の確実な定着を図り、算数的活動を通して、課題を解決できるようにすれば、学びを深めることができるだろう。
- 2 見通しをもち、数学的な表現を用いて、筋道を立てて考えをもてるようにすれば、表現力を育てることができるだろう。
- 3 交流を通して、相手意識をもった「話す・聞く」などの活動を行えば、学びを深めることができるだろう。

3 研究組織



_____は、専門部長を表す。

低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック
1年担任 2年担任 なかよし・担外	3年担任 4年担任 なかよし・担外	5年担任 6年担任 担外